

自治連よなご

第52号

平成29年(2017年)3月1日発行

発行 米子市自治連合会

(事務局 米子市企画部ふるさと創生推進局市民自治推進課内) 編集 『自治連よなご』編集委員会

魅力いっぱい! 自治会活動!!

お地蔵さんが見守る町

義方地区 灘町二丁目東区自治会 会長 本村 淳

我が灘町二丁目東区自治会には、吉祥院という江戸時代、お城の家老荒尾氏が祈祷所に使っていたお寺があります。

このお寺には、当時から陰田の石切場で採掘された青石を使い作られた『青石地蔵』があり、以前はお盆すぎの日曜日に子ども会で『地蔵さんまつり』を行っていました。お地蔵さまの周りを綺麗にし、住職のお話を聞き、夕食を共にすることで、地蔵さんまつりが子ども達の人と人とのふれあいと助け合いを学ぶ教育の場となってい

ました。

その伝統は、今も引き継がれています。しかし、少子化に伴い、現在は自治会中心で8月23日に行っています。そんな中、町内に若者が次々と舞い戻りつつあります。青石地蔵の見守る中、以前のように子どもたちの声が響き渡る賑やかな町の復活になりそうです。



原子力防災訓練に参加して

和田地区自治連合会 会長 田邊 忠雄

平成28年11月19日(日)鳥取県の原子力防災訓練に参加した。7月頃に参加を伝えられ自治会として住民にどのように避難行動してもらうか4回ほど検討会を行い訓練に備えた。

訓練開始の防災警報サイレンと避難指示の放送を合図に住民約100名が各区一団となって避難を開始した。あいにくの小雨模様であったがレインコートにマスクとリュックサックを背負い一時避難所である公民館や小学校に向け徒歩で移動した。一時避難所で点呼後、ヨウ素剤の服用要領を受け50分ほど待機、その後大型バス4台に分乗(一部の人は鉄道、陸自ヘリ)して避難退避時検査場となる江府町総合体育館へ向け移動を開始した。実際の事故であったら住み慣れた和田町へは長期間帰れないのだと思うと原発事故の恐ろしさについて考えさせられる。

訓練開始から3時間後、検査場である江府町に到着。最初にバスに乗車したまま除染の洗礼を浴びた後体育館に入った。館内は廊下や壁全体が放射能汚染対策のためビニールに覆われ、防護服に身を包んだ検査員から被ばく検査(スクリーニング)を受けた。場内では皆粛々と行動し静粛感があり原子力事故の恐ろしさと、決して起してはならないと感じた訓練であった。



スクリーニングを受ける住民

平成28年度総務大臣表彰 受賞 大高地区新良路自治会 会長 山本 克己 氏

写真で見る地域の活動!!



【永江地区】

○今年は、「米子市まちづくり活動支援事業」よりご支援をいただき移動式やぐらを製作したり、案内をフェイスブックに載せました。(7月)



【富益地区】

○富益地区自治連合会、役員研修会に山陰歴史館・館長國田俊雄氏を招き6月に「弓浜部の地域の歴史、生い立ち」の講演をしていただきました。(6月)



【明道地区 長砂町自治会】

○長砂町自治会は、校区内で一番規模が大きく、町内全世帯が仲良く暮らす機会として、50年前より運動会、昭和55年より納涼盆踊り花火大会を毎年実施しています。(10月)



【就将地区 目久美町自治会】

○ちーむ目久美では、三世代で楽しめるイベントを企画し、希薄になりつつある地域を笑顔で紡ぎたいと活動しています。(7月)



【住吉地区】

○「元気なあいさつ」「心通うあいさつ」を、地区住民が率先して実行し「明るくすみよい住吉」づくりを目指します。(11月～12月)



【加茂地区 三柳北自治会】

○毎年7月に三柳北自治会夏祭りを加茂北公園で開催しています。イベントも盛り沢山、大人も子どもも参加して皆で楽しむ賑やかな夏祭りです。(7月)



【河崎地区 四軒屋自治会】


○今年は2回の避難訓練とAED訓練を実施しました。参加者全員真剣に訓練をし、災害時・平常時でもお互いに助けあって生活することが大切である事を実感しました。(5月)



【福生西地区】

○毎年、地域の絆と親睦を深める目的で夏祭りを開催しています。特徴は地区民の善意の繋がりで開催されることです。最終の大イベント抽選会場の一コマです。(7月)

わがまちのこころをかたちにかえて

割烹 ささう 

〒683-0061 鳥取県米子市四日市町38-3
Tel (0859)30-4806 Fax (0859)30-4807
〈営業時間〉17:30～23:30 ラストオーダー 22:30
〈定休日〉日曜日



Daiwa House
大和ハウスグループ

大和ハウス工業株式会社

山陰支店 支店長 大谷 茂

〒683-0801 米子市新開5丁目1番13号
TEL0859-34-2261 FAX0859-34-2264

建設業許可番号・国土交通大臣許可 (特-27) 第5279号
宅地建物取引業者免許番号・国土交通大臣 (14) 第245号



【彦名地区彦名町 13区自治会】

○恒例のミニ文化展と同日開催で自主防災会炊き出し訓練を行いました。秋晴れの11月、おいしい豚汁で地域の親睦も深まりました。
(11月)



【崎津地区】

○昨年より始まった餅つき大会。1年生から大人まで総勢80名。順番に杵でつき、餡もちを作って美味しくいただきました。
(12月)



【成実地区】

○公民館の門松は、昭和26年以来受け継がれた伝統です。当時から竹は5本組、高さは2.5mと見事な門松です。これからも、地域で伝統を守り続けていきたいと願うものです。
(12月)



【尚徳地区 上安曇自治会】

○尚徳地域は昔より「セントル」と云い松明を焚く慣わしがある。上安曇自治会ではその日に子どもからお年寄りまで一同に集い談笑できる場として「カラオケ笑会」を実施した。(7月)



【五千石地区】

○「人まちづくり」の事業の一環として、地域の子ども会、地区自治連合会など地元有志と「五千石おやじの会」が中心となって餅つき体験が行われました。
(12月)



【巖地区】

○巖地区では、三大イベント運動会、納涼大会、いわお祭りを開催し、地区民の交流を行っています。恒例の「慈善鍋」を行い、今年は中部震災支援募金を実施いたしました。(11月)



【淀江地区】

○350年以上続く日吉神社の神幸神事「ヨイトマカセ」は、よい世の中であることを願って町民の多くが参加し、毎年、5月3日に開催されます。
(5月)



【大和地区】

○佐陀地区海岸清掃は、毎年8月の第一日曜日に関係自治会を中心に実施されます。今では周辺にある病院・老人施設関係の人も参加していただいています。
(8月)



豊かな地球を明日へ

環境プラント工業(株)

代表取締役 河本 剛

米子市高島130-1
☎0859-27-3000

「安心葬儀」“小さな葬儀”から“大きな葬儀”まで



ぴあべール

会館葬・自宅葬・寺院葬

(代)☎39-2222

ぴあべール米子
米子市西三柳103

ぴあべール・はまゆう
米子市富益町2258-1

消防団福生東分団の活動

米子市消防団福生東分団長 杉尾 繁樹

消防団の歴史は古く、8代将軍吉宗が江戸南町奉行の大岡越前守に命じ、町組織として火消組である店火消(たなびけし)を編成替し、町火消「いろは(四十八組)」を設置させたことが今日の消防団の前身であると言われていいます。各火消組に「いろは」等の名前を付けた事により、お互いの名誉にかけ競い合って働くという結果が生じ、消防の発展に多大な成果を得ることにより、今日の消防団の礎となりました。

米子市は明治25年6月「消防組」を組織。(消防団のはじまり)大正15年4月米子町に上水道敷設。消火栓による消防方法が採用され始め、各町に「ホース組合」が設立される。昭和9年全市の「消防組」と消防組合を統括する消防組の発足。市役所内に常備消防部設置。(常備消防の始まり)昭和14年4月警防団令の施工、消防組を解消して「米子市警防団」が組織される。常備消防部は警防団の常備消防部となり富士見町に屯所を構える。昭和22年4月消防団令の公布、警防団を解消して「米子市消防団」の組織が発表される。昭和23年非常勤消防団員による「米子市消防団」の発足。警防団常備消防部は消防団から離れて市に移管され、米子市消防本部となる。以上消防団の沿革を述べましたが、平成25年には東京ドームに全国から3万7千人が集い、消防団120年、自治体消防65周年記念大会が開催されました。

米子市消防団の活動は1月出初式、3月防火訓練、6月消防ポンプ操法大会、9月水防訓練、他は各団各地域により訓練がありますが、一番楽しく、大変な訓練は消防操法大会です。火災を想定して水槽から水を吸い揚げ、53メートル先の放水線までホースを3本展張して、12メートル先の標的を倒す、協調性・規律・スピードを競う競技です。

この大会は4年に一度全国大会まであります。平成24年に米子市で初めて鳥取県代表として福生東分団が東京で行われた第23回全国消防操法大会に出場しました。結果は優良賞(6位)でした。そして今年度第25

回全国消防操法大会が長野オリンピックスタジアムで開催され、鳥取県代表として再度出場しました。結果は優良賞(5位)でした。この大会で2番員安岡秀夫君が最優秀2番員として全国1位の栄冠を受賞されました。

平成26年8月に米子市が主幹で少年消防クラブが創部され、今では13名の部員が活動しています。年間3回米子消防署員による消防教室を始め、昨年度は広島県府中市で、1泊2日の消防交流会、今年度は大山青年の家で1泊2日の消防研修会、そして12月から3月は消防車による校区内火の用心啓発活動をしています。そして公民館主催の納涼祭、公民館祭にも消防団のバザーの手伝いとして参加しています。中学生がリーダーと成り小学生をまとめる、消防を通して防災の輪が広がっています。

平成25年12月に「消防団を中核とした、地域防災力の充実強化に関する法令」が閣議決定され、消防団の地域防災力の向上が期待されています。近年では地域社会への帰属意識の希薄化が生じ又、本業を持ちながらのボランティア消防団活動です。災害時には地域に密着した消防団が、自主防災組織、市役所防災安全課、消防局と連携して災害を最小限にしたいものです。しかし近年では消防団も高齢化が進み、連携は取れるけど、救助が困難な状況にあります。各校区で消防団は活動しています。若者の力を必要としています。自分の住んでいる地域は自分達で守りましょう。そして災害を最小限に抑えましょう。

火災・地震・台風・豪雨・豪雪・津波・災害はいつ来るか分かりません。自助・共助・公助この言葉をもう一度考えてみてはどうでしょうか。



第25回全国消防操法大会出場選手と支援スタッフ

編集後記

今回投稿いただいた原稿に「原子力防災訓練に参加して」がありました。これを読みながら頭に浮かんだのが、自分の住む地域の防災体制はどうなっているのかということでした。

平成28年は4月の熊本地震・夏に北海道に4つの台風上陸・10月21日の鳥取中部地震や11月24日の福島地震と自然災害が続き、大きな被害が発生しました。

特に、鳥取中部地震発生時は、車を運転中で、車輪からタイヤが外れるような横揺れを感じると同時に携帯電話から地震警報が流れてきて、大変驚きました。その3日後に、中部地区に行く用があり、赤碓あたりから屋根にブルーシートをかいた家屋が見え始め、それが北栄町・湯梨浜町・倉吉市そして三朝町まで広くありました。また倉吉市では、地区公民館が避難場所に指定され、避難している方達を見かけました。私の単位自治会にはまだ自主防災組織がなく、昨年度初めて避難訓練をしましたが、参加人数も少なくまだまだ心もとない状況です。「備えあれば患いなし」だと改めて強く考えさせられました。幸い昨年度から5か年計画で「地域福祉計画」を作成中ですので、この機会にぜひ立ち上げ備えたいと思うところです。

最後になりましたが、「自治連よなご」ではこの号と来年3月発行の54号で、自治連加盟の27地区に、淀江地区の宇田川・大和地区を加え29地区の活動を写真入りで紹介する予定です。是非お読みください。

記事をお寄せいただいた自治会の皆様にお礼と感謝を申し上げます。今後も継続して発行をいたしますので、皆様のご支援・ご協力をお願いします。